

1. 職名・氏名 准教授 藤野 秀則

2. 学位 学位 博士、専門分野 エネルギー科学、授与機関 京都大学、授与年月 2008.11

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習	
(2019年度)	
① 担当科目名(単位数) 主たる配当年次等	情報管理論(2単位 毎年開講) 3年生 (2019年度)
② 内容・ねらい(自由記述)	「情報の管理を通じた人と組織の管理」というコンセプトの理解を目的として、心理学や情報学、コミュニケーション科学といった学際的な視点から、情報と人や組織の行動・活動の関係を学ぶ。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫(自由記述)	昨年度と同様に、講義中に Web アンケートシステムを用いてリアルタイムに学生全員に答えてもらい、その場でその結果を表示するなどしたところ、学生の関心をうまく引くことができた。また、質問を時間中に投稿できるシステムを用いて、質問やコメントを集めることもおこなった。
① 担当科目名(単位数) 主たる配当年次等	経営情報論(2単位 毎年開講) 2年生 (2019年度)
② 内容・ねらい(自由記述)	組織における情報処理システムの技術的側面についての基礎知識の獲得を目的として、コンピュータやインターネットの動作原理の概要説明や、情報処理システムの設計の考え方、最近の IT 系のホットトピックである人工知能、IoT、ビッグデータの説明を行なった。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫(自由記述)	昨年度の講義でやや反応の悪かった点や、説明に時間がかかった点について、資料の作り直しや説明する内容の精査・取捨選択を行ったところ、概ね計画通りに講義を進めることができた。また、情報管理論でおこなった Web システムを、本講義でも同様に利用し、インタラクティブに講義を進めることに努めた。
① 担当科目名(単位数) 主たる配当年次等	演習1(4単位 毎年開講) 3年生 (2019年度)
② 内容・ねらい(自由記述)	情報管理論や安全管理論の基本的な考え方を習得するとともに、研究を進めていく上での基礎スキルを身につける。また、理工系も含めた関連する他分野に対するリテラシーを築く。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫(自由記述)	前期の間は、2~3人のグループに分けて、小研究を行ってもらい、後期からの本格的な研究にスムーズに入れるように努めた。研究というものや研究のすすめ方を前期に学び取ることができたため、非常に効果があったように思う。後期はゼミコン出場に向けた研究の進捗状況報告を中心にした。さらに、ゼミコン後には、行った研究について学術論文に準じたフォーマットで研究論文を執筆してもらい、それをもとに論文執筆指導も行った。
① 担当科目名(単位数) 主たる配当年次等	演習2(4単位 毎年開講) 4年生 (2019年度)
② 内容・ねらい(自由記述)	

<p>自分たち自身で PDCA を回すスキルを身に付けてもらうことを目的に、各自でテーマを立てて、自分たち自身で研究を組み立てていくという実践を行った。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述) 3年生と合同でゼミを開きながら、3年生を4年生が指導する、という体制を作れるよう、できるだけ学生主体でのゼミ運営を行うように心がけた。ゼミ中は教員は意見を基本的に出さず、指導はゼミ後の時間がゼミ前の事前指導という形で行う形とした。</p>
<p>① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 基礎ゼミ (2単位 毎年開講) 2年生 (2019年度)</p>
<p>② 内容・ねらい (自由記述) 統計分析とアンケート調査に必要なスキルを身につけることを目的に、まず調査の進め方について概説したのち、グループ毎にテーマを設定してもらって、実際にアンケート調査をし、統計分析もしてもらった。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述) 今年度もエクセルを用いた統計分析の方法を習得することを中心に進めた。今年度は大学院生がいたこともあり、概ねうまく回ったようにおもう。</p>
<p>① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 外書講読 1 (2単位 毎年開講) 2年生 (2019年度)</p>
<p>② 内容・ねらい (自由記述) 英語を英語として受け止められるように音読に力を入れるとともに、組織管理や情報管理に関連する概念を学びとることを狙いとした。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述) 去年度までと教材をガラッと変え、今年度は私自身の専門にあたる分野の洋書を読み進める形をとった。うまくネイティブスピーカーが読み上げているデータも得られたので、聞き取りの方もするようにしたが、昨年度までの教材と比べ内容が難しい上、学生自身は読み上げ音声データは持っていないので音読の練習にまでは手が回らなかった。英語力向上には音読練習は必要不可欠であるので、来年度以降、また進め方を再考したい。</p>
<p>(2018年度)</p>
<p>① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 経済学・経営学特講 B (2単位 単年度ごとの企画) 2年生以上 (2018年度)</p>
<p>② 内容・ねらい (自由記述) IoT や AI といった新しい情報通信技術についての理解を深めるとともに、そうした技術が活用される今後の社会において求められる「人らしい働き方」について考察してもらった。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述) 外部講演者のご講演に関して、講演を聞いてもらっている最中に Web フォームからリアルタイムで質問を投げかけてもらい、講演後にそれぞれ答えてもらうという形でインタラクティブに講義を進めた。また受講生が 400 人に上ったので講堂を講義室とするなど新しい取り組みを行った。</p>
<p>① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 情報管理論 (2単位 毎年開講) 3年生 (2018年度)</p>
<p>② 内容・ねらい (自由記述) 「情報の管理を通じた人と組織の管理」というコンセプトの理解を目的として、心理学や情報学、コミュニケーション科学といった学際的な視点から、情報と人や組織の行動・活動の関係を学ぶ。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述) 講義中に Web アンケートシステムを用いてリアルタイムに学生全員に答えてもらい、その場でその結果を表示するなどしたところ、学生の関心をうまく引くことができた。</p>

① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 経営情報論 (2 単位 毎年開講) 2 年生 (2018 年度)
② 内容・ねらい (自由記述) 組織における情報処理システムの技術的側面についての基礎知識の獲得を目的として、コンピュータやインターネットの動作原理の概要説明や、情報処理システムの設計の考え方、最近の IT 系のホットトピックである人工知能、IoT、ビッグデータの説明を行なった。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述) 昨年度の講義でやや反応の悪かった点や、説明に時間がかかった点について、資料の作り直しや説明する内容の精査・取捨選択を行ったところ、概ね計画通りに講義を進めることができた。
① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 演習 1 (4 単位 毎年開講) 3 年生 (2018 年度)
② 内容・ねらい (自由記述) 情報管理論や安全管理論の基本的な考え方を習得するとともに、研究を進めていく上での基礎スキルを身につける。また、理工系も含めた関連する他分野に対するリテラシーを築く。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述) 前期の間は、パワーポイントを活用したプレゼンの練習と質疑応答を毎週行った。後期はゼミコン出場に向けた研究の進捗状況報告を中心にした。さらに、ゼミコン後には、行った研究について学術論文に準じたフォーマットで研究論文を執筆してもらい、それをもとに論文執筆指導も行った。
① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 演習 2 (4 単位 毎年開講) 4 年生 (2018 年度)
② 内容・ねらい (自由記述) 自分たち自身で PDCA を回すスキルを身に付けてもらうことを目的に、各自でテーマを立てて、自分たち自身で研究を組み立てていくという実践を行った。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述) 3 年生と合同でゼミを開きながら、3 年生を 4 年生が指導する、という体制を作れるよう、できるだけ学生主体でのゼミ運営を行うように心がけた。ゼミ中は教員は意見を基本的に出さず、指導はゼミ後の時間がゼミ前の事前指導という形で行う形とした。
① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 基礎ゼミ (2 単位 毎年開講) 2 年生 (2018 年度)
② 内容・ねらい (自由記述) 統計分析とアンケート調査に必要なスキルを身につけることを目的に、まず調査の進め方について概説したのち、グループ毎にテーマを設定してもらって、実際にアンケート調査をし、統計分析もしてもらった。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述) 前年度は R を用いたが、そもそもパソコン操作であったりエクセル操作そのものに不慣れである学生が多数に上ることがわかったので、2018 年度はエクセルを用いた統計分析を行ってもらった。概ねうまく回ったようにおもうので、来年度もこのスタイルを引き継いでいきたい。
① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 外書講読 1 (2 単位 毎年開講) 2 年生 (2018 年度)
② 内容・ねらい (自由記述) 英語を英語として受け止められるように音読に力を入れるとともに、組織管理や情報管理に関連する概念を学びとることを狙いとした。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 昨年度後半に行ったスタイルを踏襲し、教材として VOA Learning English のサイトを活用した音声つきニュース記事を用いて、グループワークによって翻訳するというを行った。グループワークをする、ということで毎回、全員がそれなりに英語の予習をしてくる形を昨年度と同様に維持できた。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 経営情報特論（2 単位 偶数年開講） 大学院生 （2018 年度）
② 内容・ねらい（自由記述） 「情報管理を通じた組織管理」の考え方と、その応用として「情報技術を活用した情報環境整備」や最近の IT のトピックについて解説した。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 一昨年と異なり、今年度は受講生が留学生のみで、また経営学専攻でもなかったため、基本的な知識を得てもらうことを第一に講義を行った。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 看護マネジメント学特論（通年 4 単位 看護福祉学研究所） 大学院生 （2018 年度）
② 内容・ねらい（自由記述） 医療における安全管理の高度化を図るために、安全管理にかかわる理論や、医療だけでなく鉄道や航空、原子力などの他分野での安全管理について学習する。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 単に理論を説明するだけでなく、できるだけ具体的な重大事故事例を引用しながら、それらの理論が生まれた背景や、それらの理論に基づいてどのような対策が取られているかを説明した。
(2017 年度)
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 情報管理論（2 単位 毎年開講） 3 年生 （2017 年度）
② 内容・ねらい（自由記述） 「情報の管理を通じた人と組織の管理」というコンセプトの理解を目的として、心理学や情報学、コミュニケーション科学といった学際的な視点から、情報と人や組織の行動・活動の関係を学ぶ。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 2016 年度は板書を主体とした講義を行ったが、成績面や学生の反応面からあまり期待したほどの効果はなかったため、パワーポイントを用いたスタイルに戻した。講義中に Web アンケートシステムを用いてリアルタイムに学生全員に答えてもらい、その場でその結果を表示するなどしたところ、学生の関心をうまく引くことができた。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 経営情報論（2 単位 毎年開講） 2 年生 （2017 年度）
② 内容・ねらい（自由記述） 組織における情報処理システムの技術的側面についての基礎知識の獲得を目的として、コンピュータやインターネットの動作原理の概要説明や、情報処理システムの設計の考え方、最近の IT 系のホットトピックである人工知能、IoT、ビッグデータの説明を行なった。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 昨年度の講義でやや反応の悪かった点や、説明に時間がかかった点について、資料の作り直しや説明する内容の精査・取捨選択を行ったところ、概ね計画通りに講義を進めることができた。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

<p>演習 1 (4 単位 毎年開講) 3 年生 (2017 年度)</p> <p>② 内容・ねらい (自由記述) 情報管理論や安全管理論の基本的な考え方を習得するとともに、研究を進めていく上での基礎スキルを身につける。また、理工系も含めた関連する他分野に対するリテラシーを築く。</p> <p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述) 前期の間は、パワーポイントを活用したプレゼンの練習と質疑応答を毎週行った。後期はゼミコン出場に向けた研究の進捗状況報告を中心にした。結果としてゼミコンで最優秀賞という成果が得られた。</p>
<p>① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 演習 2 (4 単位 毎年開講) 4 年生 (2017 年度)</p> <p>② 内容・ねらい (自由記述) 自分たち自身で PDCA を回すスキルを身に付けてもらうことを目的に、前年度、演習 1 で行なった研究内容を発展させる方向で、自分たち自身で研究を組み立てていくという実践を行った。</p> <p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述) 3 年生と合同でゼミを開きながら、3 年生を 4 年生が指導する、という体制を作れるようにしたかったが、残念ながらうまくそういう形にまではならなかった。また、グループワークで卒業研究に取り組んでもらったが、誰をグループにするかをよくよく考える必要があると痛感した。</p>
<p>① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 基礎ゼミ (2 単位 毎年開講) 2 年生 (2017 年度)</p> <p>② 内容・ねらい (自由記述) 統計分析とアンケート調査に必要なスキルを身につけることを目的に、まず調査の進め方について概説したのち、グループ毎にテーマを設定してもらって、実際にアンケート調査をし、統計分析もしてもらった。</p> <p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述) Excel と R を使って統計分析を行うスキルについては、学生のなかには Excel を開いたことがないという学生もあり、そういう学生にとっては R については高度すぎたように思う。来年度は Excel でできる内容に絞ってやりたい。</p>
<p>① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 外書講読 1 (2 単位 毎年開講) 2 年生 (2017 年度)</p> <p>② 内容・ねらい (自由記述) 英語を英語として受け止められるように音読に力を入れるとともに、組織管理や情報管理に関連する概念を学びとることを狙いとした。</p> <p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述) 昨年度後半に行ったスタイルを踏襲し、教材として VOA Learning English のサイトを活用した音声つきニュース記事を用いて、グループワークによって翻訳するというところを行った。グループワークをする、ということで毎回、全員がそれなりに英語の予習をしてくる形を昨年度と同様に維持できた。</p>
<p>(2)非常勤講師担当科目</p>
<p>(2019 年度)</p> <p>担当した非常勤講師科目はなし。</p>
<p>(2018 年度)</p> <p>担当した非常勤講師科目はなし。</p>
<p>(2017 年度)</p>

担当した非常勤講師科目はなし。
(3)その他の教育活動
(2019年度)
2019年11月に例年同様にゼミ有志を連れて京都大学工学部下田研究室と合同ゼミを開催した。11月に開催、ということで、3年生を中心にゼミコン研究の計画と進捗状況を発表してもらった。普段接することのない学生同士の交流を促すことができた。
2019年2月に、例年通り、金沢工業大学の山本研、北陸先端科学技術大学院大学岡田研、富山県立大学本吉研との合同ゼミを開催する予定である。3年生にゼミコンでの研究を発表してもらう予定である。
(2018年度)
2018年10月に例年同様にゼミ有志を連れて京都大学工学部下田研究室と合同ゼミを開催した。10月に開催、ということで、3年生を中心にゼミコン研究の計画を発表してもらった。普段接することのない学生同士の交流を促すことができた。
2018年1月29日にゼミ活動の一環として日華化学イノベーションセンターの見学に伺う予定である。新しい知識が生み出される場とはどういったものなのか、実際の職場においてコミュニケーションがどのようにプロデュースされているのかを観点の中心において、見学する予定である。
2019年2月に、例年通り、金沢工業大学の山本研、北陸先端科学技術大学院大学岡田研、富山県立大学本吉研との合同ゼミを開催する予定である。3年生にゼミコンでの研究を発表してもらう予定である。
(2017年度)
2017年5月に例年同様にゼミ有志を連れて京都大学工学部下田研究室と合同ゼミを開催した。今回は、立命館大中谷研からも参加があり、3研究室合同ゼミという形となり、普段接することのない学生同士の交流を促すことができた。
2018年1月に北陸新幹線白山総合車両所の施設見学を行った。車両の整備工場を見学し、普段普通にダイヤ通りにはしている新幹線の裏側で行われている車両整備という目立たないが重要な仕事を垣間見ることができた。
2018年2月に、例年通り、金沢工業大学の山本研との合同ゼミを開催する予定である。今度の合同ゼミでは、北陸先端科学技術大学院大学の岡田先生、富山県立大学の本吉先生も参加する予定であり、多彩なメンバーで様々な研究報告が聞けると期待している。

4. 研究業績

(1)研究業績の公表
①論文 (タイトル、共著者の有無(共著の場合は主たる担当箇所について)、掲載雑誌名(号数)、掲載(受理)年月日)
<ul style="list-style-type: none"> Razana Husni, Motoki Urayama, Hirotake Ishii, Hiroshi Shimoda, Takayoshi Kitamura, <u>Hidenori Fujino</u>"Development of Content Specific Information Display to Induce Informal Communication Leading to Informal Learning", , The 13th IFAC/IFIP/IFORS/IEA Symposium on Analysis, Design, and Evaluation of Human-Machine Systems, Vol., pp.Paper FriGTrack-4.1-, 2016 共著(共同研究のため担当箇所特定不能) <u>Hidenori FUJINO</u>, Hiroshi SHIMODA, Hirotake ISHII, Takayoshi KITAMURA, "Investigation of the Relationship between Staff Members' Daily Chats in a Refresh Room and Their Knowledge Sharing in the Workplace", SICE Journal of Control, Measurement, and System Integration, Vol. 9, No.6, pp.226-233, 2016. 共著(共同研究のため担当箇所特定不能) 後藤 学, 金山 正樹, 河合 学, 藤野 秀則, "職場風土改善のための方策に関する研究—コミュニケーションコーナー設置の試み—", INSS Journal Vol.25 pp.2-16, 2018 共著(共同研究のため)

め担当箇所特定不能)

- Hidenori Fujino, Motoki Urayama, Takayoshi Kitamura, Hirotake Ishii, Hiroshi Shimoda, Kyoko Iizuka, Ryo Shimano, Misato Tanemoto, Misaki Maeda, Manabu Gotou, Masaki Kanayama, "Development of Methods to Enhance Staff Members' Chats in Refresh Areas in Workplaces for Encouraging Their Knowledge Sharing", Social Computing and Social Media. Technologies and Analytics. SCSM 2018. Lecture Notes in Computer Science, Vol. 10914, pp.12-27, 2018
- 藤野 秀則, 浦山 大輝, 北村 尊義, 石井 裕剛, 下田 宏, "職場の休憩室での業務に関する雑談の誘発方法の提案", ヒューマンインタフェース学会論文誌, Vol.21, No.2, pp.169-189,2019. (共同研究のため担当箇所特定不能)

②著書

③学会報告等

(タイトル、報告学会(大会)名(開催年月日)、共同報告者の有無(共同報告の場合は主たる担当箇所))

- 藤野 秀則, 浦山 大樹, 北村 尊義, 下田 宏, 石井 裕剛: "現場での知識継承・情報共有を促す休憩室での雑談の活性化方法の提案", 電子情報通信学会技術報告 Vol.117, No.13, pp.5-8, 2017.
- 藤野 秀則, 北村 尊義, 下田 宏, 石井 裕剛, 浦山 大樹, 大倉 杏菜, 西口 幸太, 棟友 優香: "業務における知識継承・情報共有を促す「休憩所での雑談」を生み出す仕掛け", 人工知能学会第31回全国大会, 4B2-OS-23b-2, 2017.
- 藤野 秀則, 大倉 杏菜, 棟友 優香: "笑顔を用いた職場内の人間関係構築を支援する仕掛け," ヒューマンインタフェース学会研究報告集, Vol.19, No.5, pp.53-56 2017.
- 藤野 秀則, 宇野 美冴希, 藤倉 彩瑛, 柳澤 茉那: "笑う門には福来たる? ---笑いがもたらす認知的効果," ヒューマンインタフェース・シンポジウム 2017, pp.537-542, 2017.
- 藤野 秀則, "安全管理現場における知識継承・情報共有とマネジメントのあり方に関する検討," ヒューマンインタフェース学会研究報告集, Vol.19, No.9, pp.1-2, 2017.
- Hidenori Fujino, Motoki Urayama, Takayoshi Kitamura, Hirotake Ishii and Hiroshi Shimoda; "STAFF MEMBERS' CHATS IN A REFRESH ROOM AS A WAY OF KNOWLEDGE SHARING FOR MAINTAINING THE RESILIENCE OF SOCIO-TECHNICAL SYSTEMS," The 7th Resilience Engineering Symposium, 'Poised to Adapt: Enacting resilience potential through design, governance and organization.' 2017.6.26-29. (共同研究のため担当箇所特定不能)
- 藤野 秀則, 作田 博, 金山 正樹, "職場での雑談を通じた知識継承・情報共有に関する一調査", 人間工学 Vol.54, No.Supplement, paper-number 1F2-3, 2018 共著 (共同研究のため担当箇所特定不能)
- 藤野 秀則, "現場における知識継承・情報共有促進のための取り組み事例", ヒューマンインタフェース学会研究報告集 Vol.20, No.5. pp.15-18, 2018
- 藤野 秀則, 後藤 学, 金山 正樹, "職場内コミュニケーション活性化にむけた介入研究", 第34回産業・組織心理学会大会発表論文集, pp.115-118, 2018 共著 (共同研究のため担当箇所特定不能)
- 藤野 秀則 : "安全に関する情報共有のためのシステムの検討: 安全情報システムの限界とコミュニティシステムアプローチ", 計測自動制御学会システム・情報部門 学術講演会 2019, Vol., , pp.708-710, 2019.
- 藤野 秀則 : "トラックドライバの業務と事故状況", ヒューマンインタフェース学会研究報告集, Vol.,21, 8, pp.9-12, 2019.
- 藤野 秀則, 岡本 健太, 奥成 大河, 玉澤 奈々穂 : "グループワークにおける発話意欲の対面状況と非対面状況での比較", ヒューマンインタフェース学会研究報告集, Vol.,21, 7, pp.15-20, 2019.
- 前田 美咲, 藤野 秀則 : "壁色がコミュニケーションに与える影響の検討 ", ヒューマンインタフェースシンポジウム 2019 論文集, Vol., , pp.42-47, 2019.
- 藤野 秀則 : "組織文化の変革に向けた基本理論と枠組みの整理", ヒューマンインタフェース学会研究報告集, Vol.,21, 1, pp.5-10, 2019.

④その他の公表実績

- ・ 藤野 秀則, 書評「カワイイ文化とテクノロジーの隠れた関係」, ヒューマンインタフェース学会誌, Vol.19, No. 1, p.40, 2017
- ・ 藤野 秀則, 堀下 智子, “鉄道の安全性向上に向けた運転士の業務行動”, 自動車技術, Vol.72, No.3, pp.83-89, 2018 共著 (共同研究のため担当箇所特定不能)

(2)学会活動等

学会でのコメンテーター、司会活動 (担当報告名、担当学会 (大会) 名 (開催年月日))

- ・ ヒューマンインタフェース・シンポジウム 2018 「安全・安心」セッション座長、2018年9月6日、東京農工大学
- ・ ヒューマンインタフェース・シンポジウム 2019 「レジリエンス」セッション座長、2019年9月3日、同志社大学

学会での役職など (学会名)

- ・ ヒューマンインタフェース学会 会誌編集委員会 2013年4月～現在
- ・ ヒューマンインタフェース学会 研究会運営委員会幹事 2019年4月～現在
- ・ ヒューマンインタフェース学会 論文誌編集委員会幹事 2019年4月～現在
- ・ ヒューマンインタフェース学会安全管理支援技術専門研究委員会 幹事 2015年4月～現在
- ・ 計測自動制御学会北陸支部運営委員 2019年1月～現在
- ・ シンビオ社会研究会 理事 2016年4月～現在

学会・分科会の開催運営 (担当学会 (大会) 名 (開催年月日)、開催場所)

- ・ ヒューマンインタフェース学会ヒューマンインタフェース・シンポジウム 2017 (2017年9月4日～7日)、実行委員 (広報担当)、大阪工業大学
- ・ 第152回ヒューマンインタフェース学会研究会 (2018年3月10日、11日) 実行委員 (現地世話役)、静岡県伊東温泉山喜旅館
- ・ ヒューマンインタフェース学会ヒューマンインタフェース・シンポジウム 2019 (2019年9月2日～5日)、実行委員 (講習会企画運営担当)、同志社大学
- ・ 第163回ヒューマンインタフェース学会研究会 (2019年3月3日、4日) 実行委員 (現地世話役)、福井県あわら温泉花の宿
- ・ ヒューマンインタフェース学会ヒューマンインタフェース・シンポジウム 2020 (2019年9月2日～5日) 実行委員 (企業展示担当)、静岡
- ・ ヒューマンインタフェース学会論文誌「若手研究者2」特集号編集委員 2019年
- ・ ヒューマンインタフェース学会誌「オープンデザイン特集」編集委員 2019年
- ・ ヒューマンインタフェース学会誌「組織を支援するインタフェース」特集号編集委員長 2020年

(3)研究会活動等

①その他の研究活動参加 (参加研究会名、調査活動名 (期間))

②その活動による成果

(4)外部資金・競争的資金獲得実績

[年度、資金の種類および資金提供者、金額、研究代表者または分担者]

2017年度 科研費 (若手 B) 日本学術振興会 100万円 (1年目/3年間) 研究代表者
共同研究費 原子力安全システム研究所 54万円 研究代表者

2018年度 科研費 (若手 B) 日本学術振興会 50万円 (2年目/3年間) 研究代表
共同研究費 原子力安全システム研究所 54万円 研究代表者

2019年度 科研費 (若手 B) 日本学術振興会 50万円 (3年目/3年間) 研究代表
共同研究費 原子力安全システム研究所 54万円 研究代表者

(5)特許出願

5. 地域・社会貢献

(1)学外団体
①国・地方公共団体等の委員会・審議会（それぞれの名称、業務内容、担当期間） ・福井県RPA試行導入業務に関する 審査委員会委員 ・福井県災害情報インターネットシステム再構築業務に関する 審査委員会委員
②国・地方公共団体等の調査受託等（それぞれの名称、業務内容、活動期間）
③（公益性の強い）NPO・NGO 法人への参加（それぞれの名称と活動内容、活動期間）
④（兼業規程で業務と見なされる範囲内での）企業等での活動（企業名、活動内容、活動期間） ・福井県立病院 10 階南病棟における院内研究についての研究相談, 2018 年 8 月～10 月 ・石川県自治体病院協議会加賀地区研修会での講師「ヒューマンファクターズに基づく事故防止の考え方」, 2019 年 2 月 2 日 ・北陸トラック株式会社安全教室での安全管理についての講演, 2019 年 10 月 6 日 ・福井県立病院医療安全研修, 2019 年 12 月 1 日, 9 日, 2020 年 1 月 27 日, 31 日, 2 月 3 日, 5 日
⑤大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等
⑥その他（名称、活動場所、活動期間）
(2)大学が主体となっている地域貢献活動等
① 公開講座・オープンカレッジの開講（タイトル名、開催場所、開催日時） ・「ヒューマンエラーと事故防止の考え方」, AOSSA, 2019 年 8 月 3 日, 10, 24 日, 14 日, 21 日, いずれも 13:30～15:30 ・大学院短期ビジネス講座「ミス防止・事故防止の考え方」, 地域経済研究所, 2019 年 11 月 2 日
② 社会人・高校生向けの講座（タイトル名、開催場所、開催日時） 2018 年度丹生高校中高一貫教育ウィンタースクールでの出前講義(越前町生涯学習センター)、 2018 年 12 月 25 日 2019 年度藤島高校 1 年生向けの講義（大学探訪）、2019 年 7 月 18 日
③ その他（名称、活動場所、活動期間） 北陸テクノフェアへの出展（産業会館）2018 年 10 月 25 日・26 日
(3)その他（個人の資格で参加している社会活動等） （活動内容、主たる活動場所、活動期間） ・福井市木田地区体育振興会大町地区委員（2017 年度）

6. 大学の管理・運営

(1)役職（副学長、部局長、学科長） （職名、期間）
(2)委員会・チーム活動 （名称、期間） 経済学部情報教育作業部会、2015 年 4 月～現在 2017 年度経済学部新入生オリエンテーション合宿企画運営（リーダー） 2016 年 8 月～2017 年 6 月 2018 年度経済学部新入生オリエンテーション研修企画運営（オブザーバ）2017 年 10 月～2018 年 4 月

(3)学内行事への参加

(行事名、参加日時)

2017年度新入生オリエンテーション合宿参加、2017年4月8日・9日

2018年度新入生オリエンテーション研修参加、2018年4月7日

2019年度新入生オリエンテーション研修参加、2019年4月6日

(4)その他、自発的活動など

(活動名、活動内容、活動期間)

2017年度県大ブバリオバトルを10月の学園祭の中で開催(運営)、2017年10月15日

2017年度経済学部有志によるゼミナールコンテストの運営、2017年12月23日

2018年度福井学生ブバリオバトルを県大図書館にて開催(運営)、2018年11月19日

2018年度経済学部有志によるゼミナールコンテストの運営、2018年12月22日

2019年度経済学部有志によるゼミナールコンテストの運営、2019年12月23日